

中国（上海）ビジネスサポート

Monthly China News

*毎月1回、定期的に中国より配信致します。

【政治・経済】

- ・ **外交部「中国経済が好スタート、高まる国際社会の中国への信頼」**：中国の第1四半期の国民経済に関する主要統計などが最近、西側メディアの注目を集めていることについて、外交部（外務省）の林劍報道官は17日、「中国経済の各指標は今年、好スタートを切った。国際社会では最近、中国を有望視する声が高まり、中国の発展に対する信頼が高まっている」とした。林報道官は「国家统计局が発表した統計によると、中国の第1四半期の国内総生産（GDP）は前年同期比5.3%増となった。成長率、雇用、インフレ率、国際収支という4つの主要なマクロ経済指標は概ね安定を維持した。固定資産投資の伸び率は2023年を1.5ポイント上回った。社会消費財とサービスの小売売上高は前年同期比でそれぞれ4.7%、10%増加した。輸出入の伸び率は6四半期ぶりの高水準を記録した。住民1人当たりの可処分所得は6.2%増加した」と説明。また、「アジア開発銀行（ADB）、ゴールドマン・サックス、モルガン・スタンレーなどの国際金融機関は、今年の中国の経済成長率見通しを次々に引き上げた。ADBが発表した2024年の『アジア開発見通し』は、2024年から2025年に中国はアジアの発展途上国経済の成長に46%寄与し、世界経済の成長に対する寄与率が最大のエコノミーであり続けると予測した」と述べた。そして「中国は経済の効果的な質的向上と合理的な量的成長の実現推進に努め、各国と経済協力を強化し、世界経済の回復と発展を共同で後押ししていく」とした。（4/18 人民網）
- ・ **中欧班列「中央ルート」第1四半期の貨物輸送量は80万トン超**：内蒙古（内モンゴル）自治区にある二连浩特（エレンホト）通関地を經由して中国を出入国した国際定期貨物列車「中欧班列」の貨物輸送量が前年同期比3.85%増の81万5,000トンとなり、列車の運行本数は同7.5%増の802本となった。同通関地は中国・モンゴル間で最大の陸上輸送の通関地であり、中欧班列の「中通道（中央ルート）」で唯一の輸出入通関地だ。現在、71路線が運行されており、取り扱う物品は最も初期の携帯電話やコンピューターなどの製品から、徐々に自動車の完成車や部品、電気機械設備など1万種類以上の製品へと広がっている。（4/19 人民網）
- ・ **人民元が4ヶ月連続で世界第4位の決済通貨に**：中国人民銀行副総裁兼国家外為管理局局長の朱鶴新氏は18日、国務院新聞弁公室の記者会見で、今年第1四半期（1-3月）、中国の全ての物品貿易クロスボーダー決済のうち30%近くが人民元で行われ、人民元が4ヶ月連続で世界第4位の決済通貨になったことを明らかにした。SWIFT（国際銀行間通信協会）の発表した統計によると、人民元のシェアは再び上昇し、ほぼ4.7%に達した。（4/19 人民網）

【製造業関連・関連の政策等】

- ・ **中国1-3月の自動車生産・販売ともに660万台超 好調なスタートを切る**：中国自動車工業協会が10日に発表した情報によると、2024年第1四半期（1-3月）には、中国の自動車産業の経済運営が安定的に動き出し、同期の自動車生産量は前年同期比6.4%増の660万6,000台、販売量は同10.6%増の672万台となり、幸先の良いスタートとなった。そのうち3月は生産、販売ともに260万台を超え、

前月比でも前年同期比でも増加を達成した。年初以来、中国の新エネルギー自動車の急増傾向が続いている。同期の新エネ車生産量は同 28.2%増の 211 万 5,000 台、販売量は同 31.8%増の 209 万台に上り、市場シェアは 31.1%に達した。そのうち輸出は同 23.8%増の 30 万 7,000 台だった。(4/11 人民網)

- **中国 1-3 月の GDP、前年同期比 5.3%増**：中国国家统计局が 16 日に発表した統計によると、今年第 1 四半期（1-3 月）の国内総生産（GDP）の速報値は 29 兆 6,299 億元（1 元は約 21.3 円）となり、不変価格で計算すると、前年同期比 5.3%増加し、2023 年第 4 四半期（10-12 月）より 1.6%増加した。第 1 四半期、社会消費財小売総額は 12 兆 327 億元で、前年同期比で 4.7%増加した。全国固定資産投資（農家を含まず）は前年同期比 4.5%増加、物品輸出入総額は前年同期比 5.0%増加した。全国の都市部調査失業率の平均値は 5.2%で、前年同期比 0.3 ポイント減少した。生産需要は安定の中で増加し、質の高い発展は新たな成果を収め、国民経済は回復・好転基調を継続し、好スタートを切った。(4/16 人民網)
- **中国 1-3 月の物品・サービス貿易黒字額が 600 億ドル突破**：国家外貨管理局が 18 日に発表したデータによると、大まかな統計では、2024 年第 1 四半期（1-3 月）の中国の物品貿易とサービス貿易の黒字額は合計で 600 億ドル（1 ドルは約 154.6 円）を超え、同時期としては歴史的に高い水準だったという。将来を展望すると、中国の経常収支は合理的な規模の黒字を維持するだけの基礎と条件を備えている。そのうち、物品貿易の黒字は今後も高い水準を維持するとみられ、中国の輸出は構造的な要因と周期的な要因が共に支え合って、サービス貿易構造がさらに最適化し、生産的サービス貿易の役割がより顕著になると予想される。(4/19 人民網)

【トピックス】

- 1、AI は「電気を食う怪物」？電力不足に直面？ **中国のソリューションに注目**：人工知能（AI）が急速に発展する裏で、消費電力の問題が日増しに顕在化し、業界の注目点になっている。米国メディアの報道によると、ChatGPT（チャット GPT）は 1 日あたり約 2 億件のニーズに応え、消費する電力は 50 万 kWh を超え、米国 1 万 7,000 世帯分の 1 日あたりの電力使用量に相当するという。現在、中国の総計算力は世界 2 位であり、2021 年にすでに「東数西算」（東部地域のデータを西部地域で保存・計算すること）プロジェクトをスタートさせた。土地、水・電力、運営・メンテナンスなどの要素の影響により、東部地域のデータセンターは運営コストが高い一方で、広い西部地域には相対的に豊富な再生可能エネルギー、クリーンエネルギー、土地資源があり、優れた気候条件によりデータセンターの運営におけるエネルギー消費を削減し、二酸化炭素の排出量を削減することが可能だ。そのため、データセンターを西部の資源が豊富な地域に集積するよう誘導すれば、西部地域のデータセンターの低炭素、グリーン、持続可能な開発を推進することができる上、東部地域の計算力ニーズにも応えることもできる。(4/17 人民網)
- 2、将来は「空飛ぶタクシー」で出勤？ **「低空経済」は 2 年後に 1 兆元を突破へ**：将来は地下鉄、バス、自家用車のほか、「空飛ぶタクシー」も一般市民の通勤手段になるだろうか。工業・情報化部（省）の賽迪顧問股份有限公司が発表した「中国低空経済発展研究報告（2024）」によると、2023 年に中国の低空経済の規模は 5,059 億 5,000 万元に達し、成長率は 33.8%にも達した。一方で、23 年の中国の eVTOL 産業の規模は 10 億元に迫り、民生用ドローン産業の規模も 1,200 億元に迫ったという。同報告書によれば、低空飛行活動が日増しに増加するにつれ、低空インフラ投資の牽引効果も徐々に現れるようになり、今後数年間、中国の低空経済は急成長傾向を維持するとみられる。26 年には、中国の低空経済の規模は 1 兆元を突破して、1 兆 644 億 6,000 万元に達する見込

みだという。(4/11 人民網)

3、中国、2026年のヒューマノイドロボット市場規模は100億元突破の見込み：第1回中国人型ロボット産業大会並びにエンボディドAIサミットが9日、北京で行われた。その中で発表された「ヒューマノイドロボット産業研究報告」によると、世界のヒューマノイドロボット業界はすでに発展の黄金期に入り、これから市場規模が持続的に拡大する見込みだ。2026年に市場規模は100億元を超えて104億7,100万元に達する。2030年にはさらに1千億元市場に成長し、1,192億4,600万元に達する見込みだ。同報告は、「将来を見通すと、中国のヒューマノイドロボットは政策、資本、技術など複数の面によるエンパワーメントを受けて、市場のポテンシャルが加速的に発揮されるだろう。ますます多くの中国企業とインターネット大手がヒューマノイドロボットの競争に参入するのにもなって、こうした企業が世界のヒューマノイドロボット企業と同じ土俵で競い合うようになるだろう」としている。(4/10 人民網)

4、中国のメーデー5連休中の海外旅行が人気に 日本や韓国が中心：今年は5月1日から5月5日まで5連休となるメーデーを目前に控え、多くの人の話題はもっぱら「どこへ旅行に行くか」になっている。旅行サイト・携程網の予約データによると、海外旅行の人気が高まりそうだ。旅行会社・衆信旅游集団の広報担当者・李夢然氏によると、サプライチェーンの回復や、多くの国が中国人を対象にビザ免除措置を実施しているといった要素が重なり、同社の5連休中の海外旅行商品の数が前年同期比で200%増となっている。現時点で、海外旅行を予定している人の数は、前年同期比で約370%増となっており、今後は400%増以上になる可能性もあるという。携程網が発表した「2024『メーデー5連休』中の旅行動向洞察報告」によると、5連休中に人気となっている海外旅行先は、日本やタイ、韓国、マレーシア、シンガポール、米国、インドネシア、オーストラリア、フランス、ベトナムなどだ。また、サウジアラビアやカタール、ウズベキスタン、タジキスタンといった「一帯一路」(the Belt and Road) 共同建設国に向かう旅行の予約件数も前年同期比で増加している。(4/18 人民網)

【第135回広州交易会展】

中国輸出入商品交易会(広州交易会)のプレスセンターは11日、第135回広州交易会が4月15日か



ら5月5日にかけて、広東省広州市で三期に分けて開催され、新商品100万点以上、グリーン商品45万点以上が展示される予定であることを明らかにした。独自の知的財産権を有する商品は25万点以上で、いずれの数字も前回は上回っている。今回の広州交易会の展示面積は155万平方メートルで、各準備が現在、順調に進められている。企業2万8,600社が輸出展に出展することになっており、うち4,300社以上が初の出展となる。輸入展には680社が出展する。

今回の広州交易会の出展企業のうち、企業5,500社以上が、中国の国家級ハイテク企業や製造業ニッチトップ企業、「専精特新(専門化・精密化・特徴化・新規性)」の小巨人企業(高い成長性または大きい発展のポテンシャルを持つテクノロジーイノベーション中小企業)で、その数は前回に比べて20%増となっている。



デジタル技術やスマート製造の展示テーマをさらに充実させるべく、今回の広州交易会には、関連の企業約 3,600 社が出展することになっている。出展する企業が展示する予定の商品は、ブレイン・マシン・インタフェース (BMI) スマートバイオニックハンドやナビゲーション搭載の自動輸送設備、人工知能 (AI) 翻訳ツールなど 9 万点以上となっている。



今回の広州交易会は、世界の産業チェーンのサプライチェーン安定化をさらにバックアップすることになりそうだ。広州交易会プレスセンターによると、主に消費財が展示されるものの、展示される中間財や資本財の割合は近年、12%上昇している。広州交易会といったプラットフォームを通して、中国は世界に向けて、競争力が高く、供給が安定したハイクオリティの商品を大量に供給し、各国や特に発展途上国が工業化を実現できる

ようバックアップしている。(4/12 人民網、写真元：4/17CCTV_13 ニュース)

【イベント】

【出展募集中】FBC 上海 2024in GSA 2024 年 6 月 5-8 日 上海新国際博覧中心

【出展募集中】FBC 上海 2024in PTC 伝動展 2024 年 11 月 5-8 日 上海新国際博覧中心

* (公財) 大阪産業局上海代表処は FBC ものづくり商談会の共催団体になっています。特別価格で出展可能です。

大阪産業局上海代表処 中国 (上海) ビジネスサポート
ファクトリーネットワークチャイナ (工場網信息科技 (上海) 有限公司)

上海市長寧区延安西路 2201 号 上海国際貿易中心 2 階 268 室